

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

米国大統領選で大方の予測を裏切りトランプ候補が勝利したことで相場の大きな流れが変わったようです。

当初は「トランプ・ショック」で101円20銭までドル安が進んだものの、その後はトランプ次期大統領の掲げる大型減税や財政出動・規制緩和といった政策に対する期待が高まり、米国株は新高値を更新、米長期金利は急上昇し、ドルも全面高となって「トランプ・ラリー」に変化しました。

### 【ドル/円 週足】



12月1日には、OPEC総会での減産合意を受けた原油高・株高・米国債利回り上昇を背景に今年2月以来となる114円83銭まで上昇し、大統領戦後わずか3週間強で上昇率は13%を超えるものとなりました。

この上昇により年初から続いてきたドル安・円高は終了したことが確認されたといえるでしょう。注目していた長期の趨勢を占う52週移動平均もクリアーに上抜けてきており、当面ドルの下値は限られたものとなりそうです。

この急激なドルの上昇は積み上がった円ロングポジションの巻き戻しによるものでしたが、12月に入り急速に円ショートポジションが積み上がりつつあります。

市場センチメントが明確にドル買い・円売りに傾いているのであれば、ドルの上昇余地は小さくはなく、年初の水準である120円を試しにいく可能性も高まってくるものと思われます。

# ドル/円相場のトレード戦略

---

## ■ 短期展望

先週は、週初こそ利食いの売りに押されドルの上値の重い動きとなりましたが、米連邦公開市場委員会（FOMC）の内容が市場の予想よりもタカ派的なものだったことからドル買いが加速し、一時118円66銭までドル高が進みました。

先週の動きを見ると、海外投機筋はドル買い・円売りを基本戦略として円ショートポジションを積み上げてきていますが、本邦輸入企業や機関投資家、個人投資家はドルの買い遅れが目立ちます。これは、トランプ・ラリーに懐疑的な本邦の識者やエコノミストの影響があるものと思われませんが、経験則的にはこのような状態は一段のドル上昇余地が残っているものと考えられます。

したがって、今週は、クリスマス休暇を控え一時的にポジション調整のドル売りに押される可能性はあるものの、ドルの底堅い動きは継続するものと思われれます。

ただし、ポジション調整が先行した場合は、下押しのめどは116円水準、その後の上昇は先週の高値を意識した動きとなり、120円を試す動きは来週以降となりそうです。